カルメル
霊性センターニュース

聖母子像（宇治カルメル修道院）

2019 年 6 月　　354 号

【教会からの巻頭の言葉】「イエスにお目にかかりたいのです」(ヨハネ12章21節)

多方面で世俗化が進んでいるにもかかわらず、世の中に霊性の要求が普及していることは、今日みられる「時のしるし」です。このしるしは、世界の大部分において、祈りの新たな必要として表面化してきたのではないでしょうか？　古くからからキリスト教化された国々で、今や広範囲に存在している他の宗教もまた、このような必要に対する固有の答えを提供してり、時には好意的な態度をとっています。御父の啓示者であり、世界の救い主であるキリストを信じる恵みをいただいたわたしたちは、魂の深いところで主との関係を持つことが出来ることを示す義務があります。

(聖ヨハネ・パウロ二世使徒的書簡『新千年期の初めに』
第3章「キリストからの再出発」33〔2001年〕)

目次

教会からの巻頭の言葉・・・・・・・・・・・・・・・1

目次・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

心の泉・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

通信深読お申込みのご案内・・・・・・・・・・・２２

カルメル会の企画案内・・・・・・・・・・・・・・２３

東京・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２４

名古屋・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２７

京都・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２８

北陸・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３０

諸所の企画案内・・・・・・・・・・・・・・・・・３１

郵送お申込みのご案内・・・・・・・・・・・・・・３８

あとがき・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３９

心の泉

十字架の道行きと黙想の家（宇治カルメル会）

第三巻

第二十一章　すべての善と賜物にまさって、神のうちに平和を見いだす

１　子

《私の霊魂よ、すべてにまさって、つねに主において慰めを求めなさい。神は聖人たちの永遠の憩いである。甘美で愛すべきイエスよ、すべての被造物にもまさって、ただあなたにおいてのみ私を休息させてください。すなわち、すべての健康と美、すべての栄光とほまれ、すべての勢力と地位、すべての学問と教養、すべての冨と芸術、すべての喜びと楽しみ、すべての評判と賛辞、すべての甘美と慰め、すべての希望と約束、すべての功徳と望み、あなたが与えてくださるすべての賜物と恵み、心が味わい得る歓喜と愉快、また最後に天使と大天使と天の軍勢、見えるもの見えないもの、これらのものすべてを超えて、私の神よ、あなたにのみ、休息させてください。

２　神だけがよいもの

主なる私の神よ、あなたは、すべてを超えて善であり、いと高き全能者であり、完全に満ち足りたもの、甘美な慰めを与えるものであり、美しく愛すべきもの、崇高で光栄あるものです。あなただけにすべての善は完全に一致して存在します。かつてそうであったように、今もいつも。ですから、あなた以外の何を与えられても、私は不満であり不足します。あなたが示され約束されることも、あなたのすべてを見ることなく、あなたのすべてを得ないなら、私にとっては不足したものです。実に私の心は、すべての賜物と被造物において、ただあなたに休まないかぎり、真実に憩い、完全に満足することは知らないのです。

３　魂の花婿であるイエス

ああ、愛する花婿であるイエス・キリストよ、清らかな愛の的よ、万物の主よ、「あなたに休もうとして飛んでいくたびに、真に自由な翼を与えてくれるのは誰でしょう」(詩編55・7参照)。おお主よ、私の神よ、私があなたにのみ仕え、あなたがいかに優しいお方かを完全に知るのはいつのことでしょう？私があなたへの愛のあまりわれを忘れ、ごくわずかな人が知っている人間の考えと方法とを超越する方法で、まったくあなたに心をささげるのはいつのことでしょう？しかし今私は、しばしば嘆きながら、苦労の荷を背負っています。この涙の谷では、多くの不幸や患難が起こり、私の心を悩ませ悲しませ、暗くし、さまたげ、迷わせ、あなたから遠ざけ、あなたに向かわせず、至福の魂に絶えず与えられるその喜ばしい一致を味わうことができません。ああイエスよ、永遠の輝き、旅人である霊魂の慰めよ！私の嘆きとこの世での憂いによって、あなたのあわれみの心を動かしてください。

聖霊来てください。

わたしたちの心を訪れ、

あなたの造られたこの心を、

天の恵みで満たしてください。

六月九日は聖霊降臨の祝日です。「父の約束されたものを待ちなさい」と言われたイエスに従って、弟子たちと祈りのうちに聖霊が降るのを待たれた聖母とともに、わたしたちも聖霊を待ち望みましょう。

生まれつきの素質が何であろうと
　大して重要ではない。
わたしたちにとっての富、
　それは霊にとらえられ、
この愛の霊によって
　変えられることである。
～福者マリー・ユジェーヌ神父～

うっとおしい梅雨の季節に入りますが、聖霊に導かれて

"身近かな" 聖性を生きる日々でありますように。

伊従信子（いより　のぶこ）
ノートルダム・ド・ヴィ

創造主への賛美（21）

九里（くのり）　彰

樹木希林さんの手紙の冒頭はこうであった。

ひとりひとり　違って　生まれる
当然、差別がある

動物でもお互いの違いを意識し、好き嫌いもあるようである。但し、この場合の好き嫌いは、NHKの「ダーウィンが来た」などを見ていると、自然本能的なもののようである。その種が弱肉強食の過酷な自然を生きのびるために、メスは本能的に健康で強いオスを選ぶようである。いろいろと思い出すのだが、ある鳥（覚えている人は教えてください）は、発情期になると、メスを引きつけるために高くジャンプする。より高くジャンプしているオスのところへメスは来るとのことで、草むらのあちらこちらでピョンピョンと、それも延々とジャンプしている。実に滑稽なのだが、本人（本鳥？）たちは必死そのものであろう。ジャンプ力が弱ければ、相手が見つからず、修道者のように生涯独身となる可能性がある。

人間の場合は、少し高尚のような感じもするが、よくよく見れば、自然本能的なものが大分作用しているようにも思われる。以前囁かれた三高（高学歴、高収入、高身長）なども、できる限り頭と体が優れた、経済力のある人（動物の場合は、よく狩りのできるもの）と結婚して、良い子孫を残そうという女性本能のようにも思われてくる。イケメン志向も、ただ単にかっこいい人だからというのではなく、生まれてくる子供が、少しでも自分よりましな、容姿の優れた者であるようにという無意識の欲求かもしれない。

いずれにせよ、動物も人も、生物学的に見れば、より良い伴侶を見出すために、日夜、血のにじむような涙ぐましい努力をしていると言える。受験戦争なども、高学歴を目指し、少しでも他の者に差をつけようとしているわけで、ピョンピョン高く飛び跳ねる鳥と大差ないかもしれない。高身長の方は、どうにもならないとしても、高学歴によって、高収入が見込まれ、自分の好みの伴侶を獲得できるというわけである。

熾烈な競争は、受験戦争にとどまらない。これは、知力の戦いであるが、体力の場合は、オリンピックに代表される金メダルであろう。金メダルを取れば、昔の共産圏だったか、英雄として国から表彰され、高い年金や車や別荘をもらい、一生遊んで暮らせるとの話であった。　（続く）

十字架の聖ヨハネのこぼれ話（136）

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

「十字架の聖ヨハネの本質的で深遠な解説」（13）

⑹ 静かな夜：「愛する方の胸の中でまどろむ霊的眠りにおいて、霊魂は、おだやかな夜のいこいと安らぎと静けさを味わい、かつ所有している。と同時に霊魂は、神の内に、深淵のような暗い神的知識を受ける。それゆえに、愛する方は彼女にとって静かな夜だと言うのである」（同上 22）。　（続く）

⑺ 沈黙の音楽（しらべ）：「この夜の静けさと沈黙の内で、またこの神的光の知解の中で、霊魂は、神の英知が多種多様な被造物とみわざとをいかに適切に処理されているかに気づく。これらの被造物のすべては、また一つひとつは、神とのある種のつながりを持ち、おのおのは、その在り方に従って、自分の内におられる神について声を発している。したがって、それは、霊魂にとって、全世界のあらゆる奏楽、旋律をはるかに越えたきわめて崇高な音楽の美しいしらべのように思われる。霊魂はこの音楽を沈黙の音楽と呼ぶ。なぜなら、それは、前述の通り、声のひびきが少しも入らない静かなおだやかな知解であるから。こうして霊魂は、この音楽の甘美さと沈黙の静けさを味わうのである」（CB14-15,25）。

⑻ ひびきわたる孤独：これは前のものとほとんど同じですが、よく準備され鍛錬された霊魂は、いかにして「神ご自身において、また被造物において、神の卓越性の、この上もなくひびきわたる霊的音楽（しらべ）を」聴き取ることができるのかについて語っています。そして、「このおだやかな英知のうちにある霊魂は、上級のものだけでなく、下級のものも、すべての被造物が一一各自、神から受けた賜物に従って、神がいかなる御者にましますかについて、証しの声を上げているのに気づく。また被造物のおのおのはその固有の能力に従って神を所有しているので、それぞれ独特の様式で神を讃えているのを見る。そしてこれらの声は一つに溶け合い、神の偉大さ、英知、またその感嘆すべき知識を歌う音楽（しらべ）となる…。そして霊魂は、このひびきわたる音楽（しらべ）を、外的なすべてのものから離れた孤独のうちにおいてしか感知することができないため、これを沈黙の音楽、またひびきわたる孤独と呼ぶのである。そして愛するお方とは、彼女にとって、まさにそれなのだと言う」（同 26-27）。

（続く）

主の昇天

（ルカ２４：４６－５３）

「高いところからの力に覆われるまでは、都にとどまっていなさい」とイエスは命じられ、弟子たちを祝福しながら、天に上げられていきました。弟子たちは大喜びでイエスを礼拝し、絶えず神殿にいて、神をほめたたえていました。使徒言行録に書いてあるとおり、その後、彼らの上に聖霊が降り、彼らは力強く神の偉大な業を語りはじめます。

「高いところからの力」とは聖霊であり、「都」とはエルサレムという祈りの場、神の現存の場です。イエスの命じられたとおり、彼らはそこで祈り続け、イエスを礼拝しました。「先生」と呼び慕っていたイエスは、今や礼拝されるべき主であることを彼らは信じるようになります。復活そして昇天は、イエスが永遠のお方として神の右の座に着いたことを啓示しています。イエスは、人となられた神として、永遠に生きておられるのです。信じ、礼拝する心があるならば、いつでも、どこでも、誰にとっても、イエスは共におられる主となられたのです。

弟子たちにそうしたように、イエスは、ご自分を礼拝し、祈り続ける人に、高いところからの力をお与えくださいます。イエスが「主の霊がわたしの上にある」と自覚されていたように（ルカ４・18）、その人も、主の恵みに包まれる喜びを自覚できるようになるでしょう。また、誘惑の時、野獣に囲まれながらも、天使が仕えていたように（マルコ１・13）、私たちも、天使に守られながら、この世の危険の中を前進していく力が与えられるでしょう。

私たちが、この恵みを具体的にいただく時、それは洗礼と堅信の秘跡にあずかる時です。神を信じ、イエスを主であると告白し、聖霊を信じることを公に宣言した人は、まさに、水と霊によって洗礼を受け、新しく生まれ変わります。その人は聖霊に包まれ、キリストを着る者となります。洗礼を受けるために、大人の場合は長い期間祈り続けなければなりません。教会という「都」にとどまり続けて初めて、この恵みが授けられます。子供の場合は、さらに長い年月を教会で養育され、ようやく自分の口で信仰を告白し堅信の恵みが注がれます。「都」にとどまることは、この高いところからの恵みを受けるための必須条件なのです。

これは、すでに信者になっている人にも大切な呼びかけです。洗礼と堅信の恵みの中を生き続けることが信仰生活なのに、信者になってもそこから外れてしまいやすいのです。都にとどまる決意を新たにし、イエスを礼拝し、神との親しさを取り戻すことで、再び恵みの中に入ることができるでしょう。

秘跡を受けるのは生涯に一度だけですが、恵みの中に入り直すことは絶えず繰り返さなければなりません。日々の回心です。主イエスを礼拝し、親しく対話する中で、実際に福音を証する力がみなぎってきます。天に上げられたイエスが祝福してくださるからです。この祝福により、証の力がみなぎってくるまで、ねばり強く、祈りの場にとどまり続けましょう。

（今泉健神父）

聖霊降臨の主日

（ヨハネ２０：１９－２３）

「父がわたしをお遣わしになったように、わたしもあなたがたを遣わす」

聖霊降臨の主日は、カトリックの信仰上、とても大切な祭日です。この日、聖霊が降るという約束が実現し、カトリック教会が誕生したことを祝います。過越の神秘は、使徒達に聖霊が注がれたときに頂点に達しました。イエスは、ご復活後、主の平和の賜物と罪を赦す力という２つの賜物を弟子達に与えられました。こうしてイエスは彼らに対し、聖霊の賜物を通してご自分のみ業を行う力を授けたのです。

聖霊降臨の主日は、私達と他者との間の関係性の中で、赦しとあわれみが果たす役割を見つめる貴重な機会です。赦すことの難しさを度々痛感しますが、共にいてくださる聖霊によって私達は赦しの使者となることができます。私達は、この日、自分の生活の中に聖霊を受け入れる準備ができているならば、赦しをもたらす聖霊が必ず導いてくださるはずです。

イエスは、共同体の中にご自分を現わされました。閉じられた扉すら、イエスが、ご自分のことを分からなかった人達の真ん中に立つことを妨げることはできませんでした。これは今日でも同じことが言えます。私達が一同に集まるとき、すべての扉を閉め切っていたとしても、「あなた方に平和！」という同じ呼びかけをもってイエスが私達の真ん中におられます。イエスは、手と脇腹をお見せになって、受難のしるしを示されます。復活された主は、十字架にかけられた主でもあります。この地上にお生まれになり、受難のしるしを負うイエス自身です。そして現代では、これらのしるしを、飢えと渇き、戦争、憎しみ、暴力、不正義によって苦しむ人々の苦しみの中に見出すことができます。私達は皆、使徒達と同じように、復活されたキリストから、平和、調和、和解を築く使命を与えられています。イエスは、私達を平和と赦しの使者として派遣されているのです。そして神のいつくしみと愛のよき知らせと、罪の赦しを通じて真の救いがあることを広く告げ知らせる役目を頂いています。

イエスは、聖霊降臨の使命を豊かにするご自身の使命を私達に授けました。この使命を果たすためには、聖霊とさらに親密な関係を結ぶ必要があります。聖霊のインスピレーションに従っていくために、開かれた心と知性を持つことをいつも忘れないようにしたいものです。

(Sr.Paulina)

キリストの聖体の祭日（コルプス・クリスティ）

（ルカ９：１１－１７）

「あなたがたが彼らに食べ物を与えなさい。」

教会が本日祝うキリストの聖体の祭日（コルプス・クリスティ）において、「聖なる秘跡」におけるイエス・キリストを通して、神の全てのすばらしい贈り物を思い出します。この祭日の中心の第一は、キリストが与えてくださる霊的栄養です。第二は「キリストのからだ」、教会です。「キリストのからだと血」（エウカリスティア）は、今までにキリストから私たちに与えられた最もすばらしい贈り物です。これは、私たちのこの世での安寧と霊的な安寧の両方を神がどれほど愛し、心にかけてくださっているかを示しています。

聖書の中で、イエスは弟子たちに「彼らに食べ物を与えなさい！」とおっしゃいます。今日もキリストは、何かを差し出すように求めておられます。「キリストのからだと血」を糧として与えられている私たちは、持っていないものを与えるようには求められていません。私たちの世界が非常に宗教的であっても、まだ多くの人が「キリストのからだと血」で養って頂かなければなりません。

「世界のどこかに飢えがあるならば、私たちのエウカリスティアは世界のあらゆるところで不完全です。エウカリスティアの中で、私たちは飢えているキリストを受け取ります。キリストは私たちのところに一人ではなく、地上の貧しい人たち、抑圧されている人たち、空腹に苦しむ人たちと一緒に来られるのです。キリストを通して、この人たちは私たちに援助、正義、行動に表わされる愛を待っています。私たちが『いのちのパン』を相応しく受けるには、同時に、誰であっても、どこにいる人であっても、必要としている人たちにいのちのパンを与えなければなりません。」（ペドロ・アルペ神父　SJ）

エウカリスティア（キリストのからだと血）は、共同体、すなわち犠牲から生じる絆の重要さを教えてくれます。「パン」とは、「キリストのからだ」です。聖体拝領者は何になるのでしょうか？「キリストの体」になります。キリストは「頭」であり、私たちは「からだ」です、いっしょになって、私たちは一つです。私たちを結びつけているものは、「キリストの神秘体」の仲間の中で、自分の時間や才能を神に犠牲を快く捧げることです。同じ「血」を同じカリスで分かち合うことは、この象徴です。このように、「聖なるご聖体拝領」は、私たちの一致と愛の感覚を強めます。

(Sr.Paulina)

年間第１３主日　（ルカ９：５１－６２）

今日のみことばは、イエスがエルサレムに向かう決意を固め、エルサレムに向かってゆかれる時の話です。天に上げられる時期、それは十字架上でご自身をささげられる時、神の計画を実現する時。イエスはそこへ向かっての歩みを始められ、弟子たちも従い、その中で従うことについての覚悟を試される、その様な歩みでもありました。

エルサレムに向かうにあたって、イエスはユダヤ人と敵対していたサマリア人の村を通ってゆかれました。神の福音、神の支配の訪れを宣べ伝えておられたイエス。それは、全ての人に伝えられなければならないもの。イエスはサマリア人、その村を例外とせずその中へと入ってゆかれました。もちろん受け入れかどうかは村人次第ですが…。

その様に村々を巡りながらエルサレムへと歩んでゆかれるイエス。歩みの道の途中で、イエスに従おうと表明する人びと、イエスが従いなさいと声を掛ける人々が登場します。
イエスから「わたしに従いなさい」と声を掛けられた人は、「まず、父を葬りに行かせてください」と言い、すぐイエスに従おうとしませんでした。また別の人は、「まず家族にいとまごいに行かせてください。」と言い、イエスから「…神の国にふさわしくない」と言われることになりました。

死者を葬るのは家族の務めではあるけれど、今それよりも大切な大きな務めがある。今まさに歩み始めようとしているのに、他の事に捕われ歩みを進められない者に対するもどかしさをイエスは述べられたのでしょう。神の福音、神の支配の訪れを宣べ伝え、十字架への道を歩まれるイエスに従うこと、今まさに救いを実現のためにエルサレムへ歩んでゆかれるイエスに従うこと、これこそ神から呼びかけを受けた者の歩むべき道。

私たちはイエスからどの様に呼びかけられているでしょうか。そしてどの様に応え、どの様に従っていることでしょうか。イエスが十字架へと向かって歩んでゆかれる姿を思い起こしながら、私たちも自分の十字架を担いイエスに従ってゆく者となります様に。

(Fr.　古川利雅)

（お詫び）今回「みことばのひびき 三位一体の主日」分が担当者の都合により掲載できませんでしたことをお詫び申し上げます。

いのちの言葉 ６月

あなたがたの上に聖霊がると、あなたがたは力を受ける。
そして、私のとなる。

（使徒言行録１・８）

福音史家ルカによって記された使徒言行録は、イエスが、御父のもとに最終的に戻る前に使徒たちに語った約束の言葉で始まります。イエスは、神ご自身が弟子たちに、人類の歴史の中で、神のみ国を告げ知らせ、それを築くために必要な力を与えてくださる、と彼らに約束しています。

それから間もなくして、マリア様とともに集う弟子たちの上に聖霊が降りました。弟子たちはイエスのメッセージをエルサレムの聖なる町から始まり「地の果て」にまで宣べ伝えていきました。

あなたがたの上に聖霊がると、あなたがたは力を受ける。そして、私のとなる。

使徒、そしてすべてのイエスの弟子たちは、「証人」としてされています。

神の子であることが何を意味するのかを悟るなら、私たちは、自分もイエスに「派遣されている者」であることに気づきます。そしてまず、自らの生活を通してイエスの証人となり、必要ならば言葉によってもイエスを証しするように呼ばれていることに気づくでしょう。

イエスの生き方を自分のものにするとき、私たちは証人になります。私たちに求められることは、神様の偉大なご計画である「普遍的兄弟愛」をいつも心にもちながら、家庭や職場、学校、そして余暇を楽しむときにも、出会う人々を温かく迎え、彼らとともに分かち合いながら生きていく姿勢にあると思います。

マリレーンとシルバノが体験を話してくれました。「私たちは、開かれた家庭を築きたいと思い結婚しました。最初の経験はクリスマスの日でした。みんなに『おめでとう』と挨拶しながら急いで帰宅するのではなく、小さな贈り物を用意して、近隣の人たちを二人で訪問することにしました。

最初、みんな驚きましたが、私たちの訪問をとても喜んでくれました。中でも、近所の人たちから疎外されていたあるご家族が特に喜んでくれました。何年ものあいだ誰一人この家に来てはくれなかったと、心を開いてその苦しみを話してくれ、彼らがどれほど来訪を喜んでくれたか、その幸せそうな表情に私たちの方が感動しました。

こうして多くの人と私たちは知り合いになりましたが、いつも簡単なことばかりではなく、時には、誰かが突然やって来て予定していた計画を急に変えなければならないこともありました。でも、人々との関係を築くチャンスを失いたくありませんでした。

ある時ケーキを頂いたのですが、その時、ブラジルに玩具を送るために協力してくれた女性のことを思い出しケーキをもって訪ね、その家族を知る機会にもなりました。帰り際、彼女は「誰かを訪ねていく勇気が私にもほしいわ」と言ってくれました。

あなたがたの上に聖霊がると、あなたがたは力を受ける。そして、私のとなる。

洗礼によって私たちは聖霊の賜物を授かります。でもそれだけではありません。
善意と真実のうちに、良心に従いながら、誠意をもって生きるすべての人々のうちに霊は働かれるからです。
では、どのように聖霊の存在を知り、その声に耳を傾けることができるでしょうか。
キアラ・ルービックの次の言葉は助けになるかもしれません。こう語っています。
「私たちの内に住まわれる聖霊は、私たちを光で照らし、私たちを導いてくれる真理の霊です。イエスのみ言葉を理解させ、それを生きるよう助け、み言葉が今の時代に即したものであると気づかせてくれます。また聖霊は、私たちの心が「知恵」に惹かれるよう促し、また、私たちが話す時、何をどのように話せばよいか、教えてくれます。
聖霊は、「愛の霊」です。その燃える愛で私たちの心を燃やし、私たちが心を尽くし、精神を尽くし、力を尽くして、神を愛し、また日々出会う人々を愛せるようにしてくれます。また、剛毅の霊である聖霊は、私たちに勇気と力を与え、私たちが福音に従って生き、いつも真理を証しできるよう助けてくれます。
この『愛の霊』が、私たちの心にあるなら、遠くにいる人にまで私たちが知った愛を知らせることができ、多くの人とそれを分かち合うことができるでしょう。
ところで、ここで言う「地の果て」とは、地理的に遠いことだけを指すのではありません。私たちの近くに、まだ福音を知る喜びに預かっていない人が、いるのではないでしょうか。そのような人々に対しても、私たちは証しをする必要があるでしょう。
イエスへの愛ゆえに、私たちは出会う一人ひとりと「一つになる」よう求められています。私たちの中におられる神の愛が、相手の心にそっと触れるときまで、私たちも
自分のすべてを後にするよう努めましょう。やがて相手も、私たちと「一つになる」ことを望み、互いに助け合い、自分の理想や計画を分かち合い、相互の愛を生きるようになるでしょう。その時初めて、私たちは言葉でも何かを伝えることができるでしょう。　お互いの愛があるところでは、言葉は、相手にとって贈り物となるからです」。

レティツィア・マグリ

連絡先：フォコラーレ　　東京 03-3330-5619/03-5370-6424　長崎 095-849-3812
E-mail:tokyofocfem@gmail.com
ホームページ：https://www.focolare.org/japan/

「石の声」に寄せて　　石原淳子

先月号に遠藤周作の随筆集「石の声」に触れたことで興に乗じ、本棚から大昔の本を取り出し頁を繰りつつしていたのですが、思わずしてこみ上げる深い感慨、或る懐かしさに自分でも陶然としてしまい、思いの中に身を任せるようにしてついついこの古めかしい一冊を読み返してしまいました。

出版は昭和４５年ですが、作品は２２年ごろから４３年ごろまでのものが収められていて、遠藤周作氏２０代前半の作品もあります。

どの文章にも誠実な初々しい瑞々しいひたむきな氏の心情があふれていて、胸に迫ります。　そして当時の私自身も洗礼を授かって間もなくの頃で、もう半世紀ほども前のこと、自分で言うのもおかしいことですが、同じように初々しく瑞々しくひたむきに苦しい至福の時を生きていて、神を慕い神だけに導かれて生きようとするあらゆる糧を求めていて、この本も大切なその一端であったはずです。　若い日のあの激しさが遠藤氏の若さと相俟って甦り、ここまでの長い長い時を深く深く思い感謝をもって感慨無量というほかありません。

遠藤周作というカトリック作家としての在り方、魂の生きる方向、幼少期での両親の離婚、またカトリック教徒としての信念と文学者小説家としての信念との矛盾、相克等を赤裸々に打ち明け語られる真摯な筆致に、今読んでなお深い感動を覚えています。

生涯をかけて取り組まれ追及された西欧と日本の距離、キリスト教神学が聖アウグスチヌスの神学に重点をおいて発達したならば事態は別のものになったかもしれないという慨嘆のひとこと、そしてご自身が着たのではなく着せられてしまったキリスト教、キリストという洋服のこと、すべて氏の周知のテーマですが、神学などは何ひとつ知識もない私なのに小説の読み手としていつもいつも心惹かれてきました。

「小説を書けば書くほど私はキリストを信じてきた」という氏の言葉は、愛読者としての私にとっては泣きたいほどの感動、よろこびであり、キリスト者としての私にとっては頭を垂れ伏して戴く親しい恵みのひとことであるのです。

遠藤周作を愛読するのは、敬愛する私の代母でありキリスト者同志であり友であった今は天に在るMが、キリスト教遠藤派と自認自称していた影響もあるのですが、私として最も惹かれてならないのは氏がキリスト教の洗礼を自分

からではなく母堂から受けさせられたとして、生涯をかけて深く苦闘を続けられたことにあります。　このことは私の身に迫り身に染みていわゆる他人事ではないこととしていつもあるのです。　　ただ、私は母の立場であり母である私がそうあったために、二人の息子は長じて洗礼を（自ら）受けたのですが、１０歳にも満たない時に母親が天地をひっくり返してしまうのをまともに身に受けて、特に幼い次男は自らも心身のバランスを崩すほどであり、どんなにか不安な怖い思いをしていただろうと今思い返しても息がつまる苦しさがあります。　　ご指導いただいた神父様からは「僕たちは子供として親を置いて飛び立つと云えるけど、あなたの場合は親が飛び立ってしまったから・・・」と深い理解の心をいただいたことは今も温かな支えとして心に深くあります。息子たちの受洗は単純にうれしいというよりも、すべのない驚きであり心の底から突き上げてくる慟哭のような懺悔であり、それはまた手を放し自力を緩める委託への否応ない促しでもありました。

母とは利己であり利他であり、子とのかかわりは、よろこびであっても如何なるものであってもどこか切な、むしろ肉体的といっていい悲しみ、無言の涙に覆われているという気がします。　以前にも書き記したことですがここでもまた中国の故事に由来するという「断腸」を思うのです。　人間ではなく猿ということが却って私の心に響くのは深い所以がありそうです。

遠藤氏はご母堂への深い切なる結びつき愛情こそが、あらゆるすべての基の核ではなかったでしょうか、僭越勝手ながらそう思えてなりません。

ご自身も「母親に対する愛着が非常に強い」とどこかで語っておられます。

氏の小説のなかに「犬の眼」「鳥の眼」として現れる「キリストの眼」はいつもあわれみに満ちて慈母のようにとても悲しげなのですが、限りない安堵をもたらすのです。

半世紀ぶりの「石の声」の再読は、私にとって思いがけない深い時となりました。　また、当時の社会情勢ひいてはカトリック教会の状況など現在との変化を大きく思い知らされ、昭和、平成、令和と元号を書き並べてみたくなるのですが、今思うのは、いつの時代にもどの時代にもキリストは共にあり、神さまの愛、働きは絶えないというきわめて当たり前のことです。

天国の遠藤周作氏に深く感謝を捧げます。

――　主イエズス　来てください

（上野毛教会信徒）

糸巻き棒からペンへ(43)

現代人のためのイエスの聖テレジアの教え

エドゥアルド・サンス　OCD

テレジアや同時代の人々にとって、祈りは単に霊魂の活動であるばかりでなく、生き方の選択であることを、心にとめておくことは大切です。すなわち、この選択は、私たちの存在の仕方や、内省や神との個人的な関係の探求や、ある価値を優先させ、それ以外の価値を拒否し、この世に対する自分の態度決定を伴うものなのです。今日、それは「霊性」とか「聖霊による生活」と表現することができるでしょう。聖イグナチオ・ロヨラの『霊操』の第一の注解は、このことを理解する助けとなります。「霊操によって、無秩序なあらゆる愛着を自分から取り除き、神の意志を探し求めるために、良心の糾明や黙想や、声を出す祈りや沈黙の祈りや、他の霊魂の活動のあらゆる様式が理解されてくるのです。」(『霊操』の第一の注解)。このことはすべて、その時代には、「祈り」という用語の中に含まれているのです。

このテーマはとても重要なので、聖テレジアは、自分の歴史を語る時、祈りに関する考えを述べるため、12 の章（『自叙伝』11～22）を挿入せざる得ないと感じたのです。この考えは、その後のことを理解する助けとなるでしょう。特に、聖女は祈りの関係的な次元を強調します。それは、決まり文句を繰り返すことではなく、神との友情の関係なのです。この関係は、自分が神に愛され、受け入れられていることを知ることから芽生え、キリストを模範とすることにより、自分の存在のまことの変容をもたらすものなのです。聖女は、自分の生涯の物語を再開するや、こう言います。「ここから先は新しい別の本―新しい別の生活と申しましょう―が、始まります」(『自叙伝』23,1)。

アビラの聖ヨゼフ修道院

1560 年 11 月の夕方、ドーニャ・テレサの修室に、彼女が育てた二人の姪と、他の十人の友人である修道女たちが集まっていました。彼女たちは、国王フェリペ二世がすべての修道院に送った回状を話題にしていました。国王はそこで、フランスでのルター派によって引き起こされた被害を述べ、教会一致のために祈るよう願っていました。彼女たちは、良い修道者たちの祈り、カルメル山のかつての隠遁者たちや、アルカンタラのペドロ修士や、彼が改革した王立フランシスコ会の跣足修道女たちの祈りがもたらす大きな益について、またそのような共同体として生きるすばらしさについて論じ始めました。

(P. 九里訳)

カルメル誌　新刊案内

2019年　春号　No.372

《祈りを学びたい人のために》

信仰生活(再)入門　テレーズと共に歩む　幼子の道(5)
—祈りを始めるために(1)「知ること」と「祈ること」
片山はるひ

パウロの祈りに学ぶ(1)「夜も昼も切に」
—テサロニケの教会への手紙Ⅰ　田畑邦治

現代社会において
祈りの人となるには(1)　九里　彰

風に吹かれて(19)—変わるもの、変わらないもの
原　造

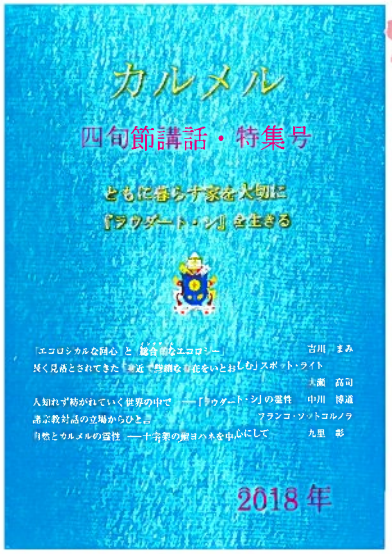
現代に響くルルドの霊性(Ⅳ)
－ひとりひとりが出会う聖母マリア
須沢かおり

キリストに伴われて季節を巡る(5)　伊従信子

僕の通学路には象がいる　森　みさ

カルメル会の会則に見る
アシェーシスと修道生活(5)　九里　彰

霊性研究会議義録(4)—歴史のキリスト、存在のキリスト、
愛のキリストについて　奥村一朗



2018年 特集号

「ともに暮らす家を大切に」
—『ラウダート・シ』を生きる—

「エコロジカルな回心」と「総合的なエコロジー」
吉川まみ

長く見落とされてきた
「身近で些細な存在をいとおしむ」スポット・ライト
大瀬高司

人知れず紡がれていく世界の中で
—『ラウダート・シ』の霊性
中川博道

諸宗教対話の立場からひと言
フランコ・ソットコルノラ

自然とカルメルの霊性
—十字架の聖ヨハネを中心にして
九里　彰

ご案内　　1 冊 520 円　A5 サイズ　50～70 ページ

サンパウロ・ドンボスコ書店・イグナチオ教会案内所・上野毛教会
信徒ホール本コーナー・各カルメル会黙想の家 他にてお求め下さい

●送付ご希望の方は、700 円【520 円（+送料 180 円）】程度の献金を下記へお振込み下さい

●年間での継続送付ご希望の方は、年会費（年 5 冊：春夏秋冬 +特集号　計　3,500 円）を下記へお振込み下さい

郵便振替:00190-4-195457　跣足カルメル修道会

お問い合わせは事務担当 竹田まで TEL(03)5706-8356

書籍案内

生きる意味

●キリスト教への問いかけ

清水正之・鶴岡賀雄・桑原直己・釘宮明美　編

A５判・312 頁・2500 円+税

ISBN978-4-87232-100-5

東日本大震災と原発事故によって喚起された「生きる意味」という愚直な問い。その答えを示すことこそが、「宗教」である。グローバル化に伴う経済格差、労働のあり方、宗教の役割など――危機にさらされている人間の救済の道を探る。

――――目次――――

序　「生きる意味への問いかけ」がなされる場をめぐって／鶴岡賀雄
1　東日本大震災と宗教／中下大樹
2　宗教と社会と自治体の災害時協力／稲場圭信
3　東日本大震災に思うこと／佐藤純一
4　脱原発の倫理／久保文彦
5　何のために働くのか／神谷秀樹
6　グローバル化する経済の中の人間／勝俣 誠
7　私たちの社会に希望はあるか？／宮台真司
8　関係の倫理学／清水正之
9　宗教が医療・医学に果たした役割、果たすことが期待されている役割／加藤 敏
10　V・フランクルのロゴテラピー／桑原直己
11　「神の子となる」――カルメルの霊性と共に／★九里 彰★
12　「おかげさま」の言語化と生き方による霊性化／中野東禅
13　エディット・シュタイン『十字架の学問』への道とその霊性／釘宮明美

オリエンス宗教研究所　TEL：03-3322-7601　FAX：03-3325-5322
ご注文は全国のキリスト教書店、オリエンスHP、FAX、ネット書店などへ

サンパウロ

愛と英知の道

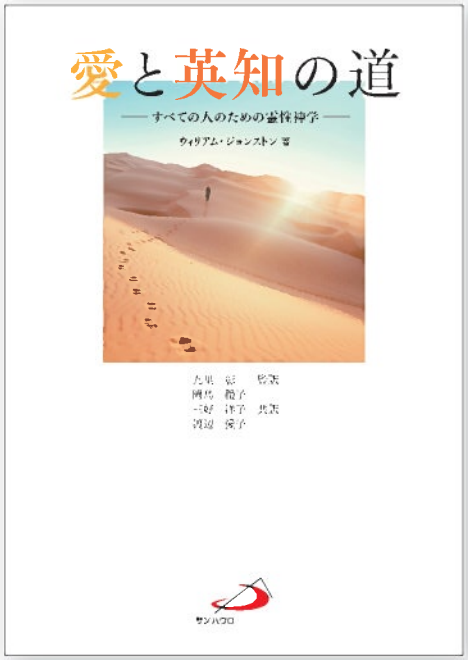
―― すべての人のための霊性神学 ――

ウィリアム・ジョンストン 著

九里　彰　監訳
岡島　禮子　三好　洋子　渡辺　愛子　共訳

西洋と東洋の神秘主義の伝統に通暁した著者が、21 世紀というグローバル化し、「地球家族」となった現代世界のすべてのキリスト者に遺した霊的生活の道しるべ。『すべての人は、聖職位階に属している人も、あるいはそれによって牧されている人も、皆聖性へと召されている。『あなたが聖なる者となること、これが神の望みである』と使徒が言っているとおりである」（『教会憲章』39）。

本書は、十字架の聖ヨハネが 16 世紀に向けてなしたことを、21 世紀に向けて行なおうとする、ささやかな試みです。言いかえると、その目的は、命の水を渇望する人たちへ、観想的な祈りを教えることです。筆者は、主にキリスト信者を念頭に置いて筆を進めますが、真理の探究において私どもと心を一つにしておられる方々にも、本書を勧めています。



第一部　キリスト教の伝統
第1章　背　景（1）
第2章　背　景（2）
第3章　理性 対 神秘主義
第4章　神秘主義と愛
第5章　東方のキリスト教
第6章　愛を通して生まれる英知

第二部　対　話
第7章　科学と神秘神学
第8章　修徳主義とアジア
第9章　神秘主義と根源的なエネルギー
第10章　英知と〈空〉

第三部　現代の神秘的な旅
第11章　信仰の旅
第12章　浄化の道
第13章　暗　夜
第14章　〈愛のうちにある〉
第15章　花嫁と花婿
第16章　一　致
第17章　英　知
第18章　活　動
第19章　社会活動の神秘主義

ウィリアム・ジョンストン　William Johnston S.J. (1925-2010)
北アイルランドのベルファストに生まれる。
イエズス会に入会し、26 歳で来日。
32 歳で司祭に叙階され、以後、英語、英文学、宗教を上智大学などで講じるかたわら、東西の宗教思想、特に神秘主義の研究と普及に尽力。ペドロ・アルペ、トマス・マートン、ダライ・ラマ、永井隆、遠藤周作との出会いを通して、次々と著作を発表。現代に則した霊性探求の先駆者として、世界に広く知られている。85 歳で帰天。

• A5判 • 600頁 • 並製 • 定価 3,400円+税 • ISBN978-4-8056-0064-1　C0016

福者マリー= ユジェーヌ神父に導かれて

十字架の聖ヨハネの
ひかりの道をゆく

伊従 信子 編・訳

ISBN978-4-88216-372-5 C0195
定価**540**円(税込)
【聖母文庫】287

第2版 好評発売中！

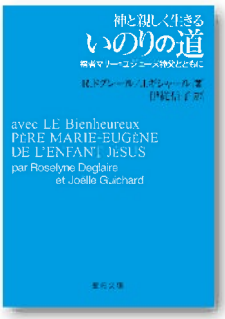
マリー = ユジェーヌ神父が十字架の聖ヨハネを生き、体験し、確認した教えなのです。ですから、十六世紀の十字架の聖ヨハネの教えは現代の人々にも十分適応されます。また、神の命を伝え、実践的手段を示して聖性の最も高い段階へと導こうとする彼の配慮が伝わってきます。(「はじめに」より)

神と親しく生きる
いのりの道

福者マリー = ユジェーヌ神父とともに

R. ドグレール / J. ギシャール 著
伊従 信子 訳

ISBN978-4-88216-307-7 C0195 【聖母文庫】246
定価**540**円(税込) 209頁



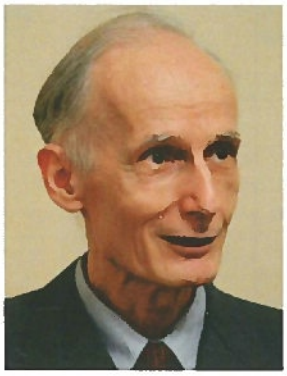
わたしは神をみたい
いのりの道をゆく

マリー = ユジェーヌ神父とともに

伊従 信子 編・著

ISBN978-4-88216-339-8 C0195 【聖母文庫】268
定価**648**円(税込) 281頁

ご注文・お問い合わせ先
聖母の騎士社 〒850-0012 長崎市本河内2-2-1
TEL.095-824-2080 FAX.095-823-5340



クラウス・リーゼンフーバー小著作集

（全五巻）四六版・４３４頁～６２８頁

各巻　本体 3、８００～5、０００ 円+税

著者は日本における中世哲学研究を牽引し、広汎にわたるキリスト教思想史の著述や編集・出版を手がけてきた。宗教家としても、キリスト教信者のみならず信仰に初めて出会う一般社会人と広く向き合い、講座や黙想会などを開いてキリスト教の精神と実践、信仰における超越との関わりを伝えている。人間の自己理解から出発し、聖書と哲学的な理解とを構架して、キリスト教信仰と霊性を現代人にとって生き生きとした形で展開している。講義、執筆活動をとおして西洋古代・中世さらに現代哲学思想をわかりやすく説く。この著作集は４０余年の著述活動による１５０余の小論考からなっており、霊的な信仰理解と人間の経験とを結びつけて互いに支え合うものとして示そうとするものである。

人生の意義の解明と存在への問い。人生をめぐる哲学的・思想史的・人間論的な諸観点のもとで、聖書に基づいて第一根源である神を中心に展開する。

		ISBN 定価（本体＋税）
第1巻	**Ⅰ　超越体験　—宗教論** 宗教の人間論的基礎付けを「意義への問い」という観点から考察した宗教哲学論文集。宗教的理解と経験がキリスト教的精神に基づいて絡み合い、人間の心を考察して全体の根源的な起源へ向ける。全 11 作、434p	9784862852151 3,800 円＋税
第2巻	**Ⅱ　真理と神秘　—聖書の黙想** 日常生活を貫いて人間とかかわる絶対的神秘を、聖書を紐解きつつ多面的な観点から浮き彫りにする。超越との関係を求める人に向けて、宗教的経験を解明する。全 35 作、544p	978-4862852175 4,600 円＋税
第3巻	**Ⅲ　信仰と幸い　—キリスト教の本質** 主の祈り、信条の命題に沿って信仰の全体像を解説。「山上の説教」をとおして人生における艱難辛苦にも焦点を合わせる。十字を切ることの意味など、聖霊の神学と霊性から信仰生活の深みを照らす。全 38 作、628p	9784862852205 5,000 円＋税
第4巻	**Ⅳ　思惟の歴史　—哲学・神学的小論** 古代から中世のキリスト教思想史の考察の上に立脚し、現代における信仰をめぐっての根本的な問いを洞察する。人間と神理解の可能性を新たに拡げて信仰生活の深みに掘下げる。全 41 作、448p	9784862852212 4,000 円＋税
第5巻	**Ⅴ　自己の解明　—根源への問いと坐禅による実践** 信仰との関わりの薄い現代人に向け、自己への問いから発した人生の意義と超越への方向付けを見出す実践的な道筋を示唆する。「今」を中心とする存在論・時間論を展開した最終講義「時間です！」収録。全 35 作、470p	9784862852229 4,200 円＋税

●リーゼンフーバー，クラウス［Riesenhuber, Klaus］

1938 年ドイツ生まれ。1958 年イエズス会入会。1967 年ミュンヘン大学哲学博士。同年来日。1969 年上智大学文学部哲学科専任講師。1971 年東京で司祭叙階。1974 年上智大学中世思想研究所所長（-2004）。1981 年上智大学教授。1989 年上智大学神学博士。国公私立大学で客員・非常勤講師。放送大学客員教授。2009 年上智大学名誉教授。現在は哲学的人間論および宗教哲学などの講座を開講。

知　泉　書　館　〒113-0033 東京都文京区本郷 1-13-2 TEL: 03-3814-6161 FAX: 03-3814-6166
http://www.chisen.co.jp

朝日カルチャーセンターの

通信深読「聖書に親しむ」へのご案内

「通信深読」は、「聖書深読黙想会」にさまざまな理由で参加できない方々のために考案されました。参加を希望される方は、下記の朝日カルチャーセンター通信講座課へお申し込みください。手続きがすめば、次のような手順でこの「通信深読」が行われてゆきます。

ファースト・ステップ

「個人素読」：毎月、朝日カルチャーセンターから指定された聖書深読箇所を、ひとりで繰り返し読み、み言葉を自由に黙想します。

セカンド・ステップ

「個人素読」の報告書作成：送られてきた用紙（B5 用紙）に、深読箇所で特に印象に残った節を二三ヶ所選び、番号と○や△や×などの記号を記し、「全」には、全体の印象を表す、ご自分の体験と結びついた具体的な名詞を、「照」にはみ言葉を実践する決意を示す動詞を書き込みます。さらに「所感」や「近況報告・質問」の欄に、ご自由にご自分の考えや質問等を記入します。

サード・ステップ

（参加者から朝日カルチャーセンターへ送られた「個人素読」の報告書は、参加者全員のものがまとめられ、講師へ送られます。）

講師が各参加者の「個人素読」の報告書に対しコメントし、深読箇所の「解読」（A４２枚）と共に、朝日カルチャーセンターへ送り返します。

フォース・ステップ

コメントされた全員の「個人素読」の報告書（「近況報告・質問」はプライベートなこともあるので、削除されます）と「総合素読表」、そして講師の「解読」が冊子となり、各参加者に、センターから送られます。

＊費用：6 ヶ月（20,360 円）。納入は 4 月、7 月、10 月、1 月。継続の場合 19,130 円。

＊講師：九里彰師（奇数月）、今泉健師（偶数月）

＊問い合わせ：〒163-0278　東京都新宿区西新宿 2-6-1 新宿住友ビル

私書箱 21 号　朝日カルチャーセンター通信講座課

Tel:０３－３３４４－２５２７（直通）

カルメル会の企画案内

カルメル会の標語

Zelo zelatus sum pro Domino Deo exercituum

私は万軍の神、主に情熱を傾けて仕えてきました（列王記上 19：10）

東京 上野毛 霊性センター

黙想企画　＊＊上野毛 聖テレジア修道院（黙想）＊＊

祭日のミサに参加するために

チェックイン午後３時以降可、チェックアウト午前１０時

【クリスマス】　１２月２４日(火)～２５日(水)朝食≪講話なし、夕食なし≫

聖書深読黙想会　（土曜日１８時～日曜日１６時）　大瀬高司 神父

７月２０日(土)～２１日(日)

１１月３０日(土)～１２月１日(日)

一泊黙想会　（土曜日１６時～日曜日１６時）　志村武神父

２０２０年

７月６日～７日　　１月１８日～１９日

１１月９日～１０日　　３月１４日～１５日

~~日帰り黙想会　（１３時３０分～１６時）　福田正範 神父~~

５月以降は全て中止となりました

奉献生活者のための黙想会　（初日１７時～最終日朝食）

※指導司祭は、当初ご案内していた福田正範神父から今泉健・志村武両神父に変更となりました

８月１日(木)～１０日(土)　　１０月１０日(木)～１９日(土)

８月１６日(金)～２５日(日)　　１２月２７日(金)～１月５日(日)

青年黙想会(男女)　35 歳位まで(初日１６時～翌日１６時)　カルメル会士

２０２０年

２月１５日(土)～１６日(日)

召命黙想会（男女）４０歳まで（初日１６時～最終日１６時）　カルメル会士
１１月２２日(金)～１１月２４日(日)

特別黙想会（初日２０時～翌日１６時）Sr. 伊従信子（ノートルダム・ド・ヴィ）
１１月１５日(金)～１１月１７日(日)

＊ 日程、指導司祭は変更される可能性もあります。 お申込みの際には、ホームページ（http://www.carmel-monastery.jp）なども合わせてご覧下さい。
＊ こちらに掲載されている以外の日時にもご利用可能です（グループ、個人いずれも）。お気軽にお問い合わせください。
＊ 間違いを避けるため、お問い合わせは FAX・はがき・E メール等、文書でお送り頂けますと幸いです。

〒158-0093　東京都世田谷区上野毛 2-14-25
聖テレジア修道院(黙想)
Tel:03-5706-7355　　Fax:03-3704-1789
E メール：mokusou@carmel-monastery.jp
ホームページ：http://www.carmel-monastery.jp

一泊黙想会

5月より新しく一泊黙想会を開始致します。皆様の参加をお待ちしています。

場所:　カルメル会聖テレジア修道院(黙想)

指導:　志村　武神父

会費:　¥6500

日時:　2019年　5月25日(土)～26日(日)　16時開始、翌日16時まで

7月　6日(土)～ 7日(日)　〃

11月　6日(土)～ 7日(日)　〃

2020年　1月 16日(土)～18日(日)　〃

3月14日(土)～15日(日)　〃

＊お問合せ・お申込み

カルメル会聖テレジア修道院(黙想)
〒158－0093　東京都世田谷区上野毛2－14－25
TEL.03－5706－7355
FAX.03－3704－1789
Eメール:mokusou@carmel-monastery.jp

カルメル修道会 土曜静修 in 名古屋

―カルメル会士とともに過ごす聖母の土曜日―

日　　時　：　２０１９年　６月１日（土）　１３時 から １７時

場　　所　：　カルメル修道会　日比野（本部）修道院　（ カトリック日比野教会 ）

プログラム　：　１３時　～　講話・黙想など
　　１６時　～　ミサ（ミサ中に教会の祈り）、サルヴェ・レジナ（ミサ後）
　　１７時　　解散

・受付開始は１２時半の予定です。
・途中、ゆるしの秘跡の時間を設ける予定です。
・プログラムに必要な「祈りのリーフレット類」は、こちらで準備いたします。

そ の 他　：　参加のための事前連絡は不要です。当日、直接会場にお越し下さい。
（ 尚、当日は、１，０００円 程度のご寄付を宜しくお願いいたします。 ）

問い合せ　：　郵便、ＦＡＸ、E-mail の何れかで「カルメル修道会 一日静修係」まで。

郵便　456-0062　名古屋市 熱田区 大宝 ４－５－１７
ＦＡＸ　０５２－６８１－６４４５
E-mail　hibino@carmel.or.jp

今後のスケジュール

７月６日（土）、＜８月はお休みとなります＞、
９月７日（土）、10月５日（土）、11月２日（土）、12月７日（土）。

何れも原則１３時から１７時まで。ホームページでもご案内しています。

http://www.carmel-monastery.jp

＜ 主催 ＞　男子跣足カルメル修道会 日比野（本部）修道院　（大瀬神父・古川神父）

宇治カルメル会　黙想会案内

【一般のための黙想】・1泊2日（午後5時～午後4時）
6月 1日(土)～ 2日(日) イエスと出会い直す　中川博道神父
~~7月13日(土)～14日(日)「私の隣人とはだれですか？」　九里彰神父~~　中止
11月23日(土)～24日(日) 現代を生きるイエスのしるし　中川博道神父

【聖書深読黙想会】（午前10時～午後4時）
6月 8日(土) 中川博道神父　　~~11月16日(土) 九里彰神父~~　中止
~~9月 7日(土) 九里彰神父~~　中止

【水曜の黙想】（午前10時～午後4時）
10月30日(水) かそけきもの　Br.原造
11月27日(水) あなたは世の塩である　Sr.ロサ
12月18日(水) 主が生まれる私たちのうちに　中川博道神父

【土曜の黙想】（午後1時～午後6時）
6月29日(土) ゴールは近い　Br.原造
~~7月27日(土)「私は復活であり、命である」　九里彰神父~~　中止
9月21日(土) み国が来ますように　Sr.ロサ
~~10月26日(土)「思い悩むな」　九里彰神父~~　中止

【一般のためのカルメル霊性】（午後5時～午後4時）
9月28日(土)～29日(日) 聖テレーズの黙想会　中川博道神父
~~10月12日(土)～13日(日) イエスの聖テレジア　九里彰神父~~　中止
12月14日(土)～15日(日) 十字架の聖ヨハネ　中川博道神父

【奉献生活者の黙想】（午後5時～午前9時）
8月 5日(月)～14日(水)　中川博道神父
~~8月19日(月)～28日(水)　九里彰神父~~　中止
11月 6日(水)～15日(金)　中川博道神父
12月27日(金)～1月5日(日)　中川博道神父

九里彰神父の黙想会は5月より金沢へ移動にあたり、全て中止とさせて頂きます
また今後、変更があり次第、掲載させて頂きます

【待降節の黙想】（午後５時～午後４時）

~~12 月 7 日（土）～8 日（日）「メシアのしるし」　九里彰神父~~ **中止**

祭日のミサに参加するために

チェックイン午後４時以降可　チェックアウト午前 11:30｛講話なし 各食事つき｝

【クリスマス】

12 月 24 日（火）～12 月 25 日（水）

－その他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします－

☆お申し込みは電話でも受け付けておりますが、できるだけＦＡＸ、はがき、Ｅメールでお名前と連絡先を御記入の上、お申込み下さい。お電話はなるべく午前９時～午後５時の間にお願い致します。受付が休みの場合はその場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合せ下さる様にお願い致します。

〒611-0002　京都府宇治市木幡御蔵山 39－12
宇治カルメル会　聖テレジア修道院　（黙想）
Tel　0774-32-7016　Fax　0774-32-7457
E-Mail:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp
http://www.carmeluji.sakura.ne.jp/

金沢黙想案内

毎月第一日曜日　三馬教会　聖堂

14：30～ 講話

15：30～ ミサ（ラテン語聖歌）

土曜フレックスタイム静修

毎月第三土曜日（第二の場合あり）三馬教会　聖堂

14：00～ 講話

14：30～ ベネディクション・聖体祭儀

15：30～ サルヴェ　レジナ　終了

沈黙の祈りのうちに神様と語らい、またご聖体のイエス様と共に静かに憩いの時を過ごし、心をリフレッシュしましょう

カルメル霊性センター

〒921-8162

金沢市三馬 3 丁目 324 番地

カルメル会　三馬修道院

三上　和久神父まで

Tel　076-244-7788

諸所の企画案内

真命山 霊性交流センター
ノートルダム・ド・ヴィ
サダナ瞑想
ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院
慈しみ深き会
詩編の会

※注）
諸所の企画記事は集約・編集しています。
記載には注意を期しておりますが、
詳細は各問い合わせにご照会下さい。
よろしくお願い致します。

真命山　２０１９年 ― 祈りの集いのご案内

「祈り」：神秘体験
キリストによって神との出会い

毎月第２木曜日（１０:００～１５:００）

指導者　フランコ神父

２月１４日：コデノッティ・クラウディオ神父(ザベリオ会管区長)

個人またはグループでの黙想会

研修会も歓迎いたします(要予約)

１月１０日　「わたしはある」（ヨハネ8:２４.２８）
２月１４日　「わたしはこの世の光である」（ヨハネ8:１２.１２:４６）
３月１４日　「わたしは門である」（ヨハネ１０:７－９）
４月１１日　「わたしは良い羊飼いである」（ヨハネ１０:１４）
５月　９日　「わたしは復活であり、命である」（ヨハネ１１:２５）
６月１３日　「わたしが命のパンである」（ヨハネ6:３５.５１）
７月１１日　「わたしは道であり、真理であり、命である」（ヨハネ１４:6）
８月　　休み
９月１２日　「わたしはまことのぶどうの木」である。（ヨハネ１５:１－１２）
１０月１０日　「わたしは…いつもあなたがたと共にいる」（マタイ２８:２０）
１１月１４日　「わたしはアルファであり、オメガである」（黙示録1:8）
１２月１２日　「二人または三人がわたしの名によって集まるところには、
わたしもその中にいるのである」（マタイ１８:２０）

申込先
真命山　諸宗教対話センター
865-0133 熊本県玉名郡和水町蜻浦1391-7
e-mail: shinmeizan@gmail.com
www.shinmeizan.com

講話と祈りのつどい

【 2019年6月15日（土)】

「信じるとは」

信仰は、神からいただいた

「神に直接触れることのできる能力」

この素晴らしい賜物を働かせる、それが祈り…

（参考テキスト『いのりの道をゆく』伊従 信子編・著）

講話・祈り・分かち合い　　２時～午後５ 時 30 分

担当　　中山真里

場　所：ノートルダム・ド・ヴィ（東京・上石神井）

参加費：200 円

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

ノートルダム ・ ド ・ ヴィ
〒177-0044　練馬区上石神井４－３２－３５
TEL(03)3594-2247　FAX(03)3594-2254
e-mail　notredamedevie.japan@gmail.co

サダナ瞑想　～東洋の瞑想とキリスト者の祈り～

詳細、補充情報はホームページをご覧ください。

http://sadhana.jesuits.or.jp/　　**込み受付・・開始日の８日前まで**

コース	日　時	指導	開催場所	申込み
フォローアップ	6/30(日) 9:30-17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道院1F （四ツ谷）	来間(くるま)　裕美子※ TEL　090-5325-2518 045-577-0740 sadhana12378@yahoo.co.jp
フォローアップ新Ⅰ	7/7(日) 9:30-17:00	サダナチーム	同上 ※16時からミサあり。 椅子での黙想です。	同上
リピーターの会＠宝塚	7/18(木)17:30－ 21(日)16:00	Fr植栗	女子御受難会修道院 （宝塚市）	西村　優子 TEL　090-8480-2661 野　真理子 TEL　090-6759-3369
フォローアップ先発組	8/18(日)9:00- 19(月)17:00	Fr植栗	札幌カトリックセンター	本間　TEL　080-3260-1864 本間不在時、 山崎　TEL090-4720-2157
歩行冥想	8/20(火) 9:00-17:00	Fr植栗	同上	同上
フォローアップ後発組	8/21(水)9:00 22(木)17:00	Fr植栗	同上	同上
妙高サダナⅡ	9/4(水)17:30- 8(日)14:00	Fr植栗	妙高教会　赤倉山荘 （新潟県妙高市）	佐藤　範子 TEL080-3145-3646

※申し込まれると確認メールが返信されます。確認メールが届かない場合は、090-5325-2518（来間）までお問い合わせください。

※不在の場合は、渡辺由子　Tel＆Fax：042-325-7554

◆サダナⅠ（入門A.B.C）…体の営みと想像とを生かして祈りを深め「神との出会い」と「心の解放」をめざします。　◆サダナⅡ…Ⅰをいっそう深める。身体・感・想像・自分史が、神との交わりのもと統合されます。　◆フォローアップ…サダナⅠを終えた方。　◆入門C…」入門Aまたは入門Bを終えた方。　◆サダナ新Ⅰ…入門A.B.C（サダナⅠ）に参加された方の引き続きの前進のために、その良さを噛みしめながら進みます。以前体験したことを復習しながらの歩み出しです。

ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院　（２０１９年）

◎　所 在 地：　〒520-0106　滋賀県 大津市 唐崎　1丁目　3－1
Tel：　077-579-7580
Fax：　077-579-3804
E-ﾒｰﾙ：　karainorind92@mbe.nifty.com

◎　交　通：　JR 京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車。
琵琶湖の方へ徒歩 約 13 分

◎　日　程：

A.　8 日間の個人指導による黙想
初日は、18 時の夕食で始まり、最終日は昼食で終わります。
①　5 月　5 日（日）～　5 月 13 日（月）
②　8 月 14 日（水）～　8 月 22 日（木）
③　10 月　6 日（日）～　10 月 14 日（月）
⑤　12 月 27 日（金）～2020 年 1 月　4 日（土）

B.　祈りの体験：週末 3 日間　（金曜日の夕食～日曜日の昼食）
【神との親しさの中で日常を生きるために】
④　6 月 21 日（金）～6 月 23 日（日）
⑤　7 月 12 日（金）～7 月 14 日（日）
⑥　9 月 20 日（金）～9 月 22 日（日）
⑦　11 月 15 日（金）～11 月 17 日（日）

C.　講話　黙想（奉献生活者のため）

2019 年 5 月 30 日（木）夕食 ～ 6 月 7 日（金）昼食　　小暮　康久 師（SJ）

◎　対　象：信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。

◎　霊的同伴者：　司祭、　ﾉｰﾄﾙﾀﾞﾑ教育修道女会会員、その他

◎　申込み：　1）氏名(ﾌﾘｶﾞﾅ)　2）〒住所　3）電話番号　4）希望日程(番号）を書いて郵送、または、Fax で「黙想係」Sr.松本佳子へ申し込んでください。
唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。

いずれの場合も、10 日前までに申し込んでください。　先着順 11 名です。

◎ 女子青年　黙想会
①　6 月 15 日（土）15 時～6 月 16 日（日）15 時 30 分
②　10 月 26 日（土）15 時～10 月 27 日（日）15 時 30 分
申込み：唐崎修道院　Sr.桂川 美代（Tel:077-579-2884　Fax:077-579-3804）

◎　その他：　司祭同伴の黙想会やｸﾞﾙｰﾌﾟ研修会のために修道院をご利用なさりたい方はご相談ください。　（但し、上記の日程と 8 月 1 日～8 月 9 日、9 月 1 日～9 月 7 日を除きます。）

慈しみ深き会

祈り：講話と実践

沈黙の内に神を求めて
－観想の祈りへの道－

場所：イグナチオ教会岐部ホール404号室
12月のみマリア聖堂（ミサあり）
１４：００～１６：００

指導：九里（くのり）　彰神父（カルメル修道会）

【2019年予定】　聖書のみことばを通して、念祷してゆきましょう。

~~1月24日　まことの家族とは~~　終了
~~「わたしの母、わたしの兄弟とは…」（ルカ8・21）~~
~~3月21日　祈りと祈りの場~~　終了
~~「わたしの家は、祈りの家でなければならない。」（ルカ19・46）~~
~~5月16日　人間の傲慢~~　終了
~~「だれが一番偉いかという議論が起きた。」（ルカ9・46）~~
７月２５日　神の愛と隣人愛
「わたしの隣人とはだれですか。」（ルカ10・29）
９月２６日　信仰と救い
「あなたの信仰があなたを救った。」
（ルカ7・50；8・48；18・42）
１１月２８日　神の愛と回心
「人の子は、失われたものを捜して救うために来たのである。」
（ルカ19・10）
１２月１９日　謙遜と従順　（講話の後、ミサ）
「お言葉どおり、この身に成りますように」（ルカ1・38）

＊参加費無料（献金歓迎）
＊問い合わせ先：042－473－6287　篠原

※各黙想会内容･日程等、 詳細については各問い合わせ先に、 ご確認ください。

午後の静修<講話・念祷・ミサ>へのおさそい

≪イエスを生きる起点≫

—ペトロとパウロ—

日　時：2019 年 6 月 29 日(土)
12 時 ～ 16 時（受付 11 時半）

指　導：中川博道神父　（カルメル修道会）

対　象：どなたでもご参加ください。

※実費費用の為に献金をお願いします。

上履きをご持参ください。

要申込：住所・氏名・電話番号・所属教会
をご記入の上、
FAX 又はメールにて　（返信します）
定員になり次第〆切
FAX:045-402-5131
e-mail:shihennokai@gmail.com

場　所：聖パウロ修道会 若葉修道院

東京都新宿区若葉 1-5
JR 中央線/営団地下鉄　丸ノ内線・南北線　「四ツ谷」駅下車
サンパウロ→ドンボスコ→ファミリーマートを左折
→甘栗太郎を右折→道なりに右折→90m 直進
四ツ谷小学校の正面

主催：「詩編の会」

問合せ：TEL/FAX：045-402-5131（藤井）
e-mail: shihennokai@gmail.com

『霊性センターニュース』
＊郵送お申込みのご案内＊

ご郵送は、基本的に１月から 12 月までとなります。
途中からお申し込みの場合は、お申し込みの翌月から 12 月までとなります。
例：６月申込の場合は、７月号~12 月号（但し８月号は休刊）となり、
５冊となります。　ご希望の月数×250 円程度の献金を下記口座（新設）へお振込み頂ければ、幸いです。

郵便番号口座：　００９１０－６－３３３１８４
加入者名：　カルメル霊性センターニュース事務局

なお、振替用紙の通信欄には、「郵送申込」（何月から何月まで）、また氏名、郵便番号・住所、電話、Fax 等ご明記ください。
何かご質問等があれば、事務局の方にご連絡ください。

〒611-0002　京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
カルメル会宇治修道院　「霊性センターニュース事務局」
Tel:0774-32-7456
Fax:0774-32-7457
≪変わりました≫ reisei@carmel-monastery.jp

「霊性センターへの献金」のお願い（上とは別）

「霊性センターニュース」は、７月より、宇治霊性センター事務局で編集、印刷、製本、発送等を行っておりますが、経費はすべてカルメル会で負担しております。読者の皆様のご理解とご協力をいただければ、幸いです。
献金される方は、下記の口座へお振り込みください。

郵便番号口座：　００９１０－６－３３３１８４
加入者名：　カルメル霊性センターニュース事務局
なお通信欄へは「献金」とご記入ください。

あとがき

今月号から、今まで長きにわたって編集長を務めてこられた九里彰神父に変わって、私、中川博道が編集に携わることになりました。

編集に携わると申しましても、ほとんどのことは九里神父が整えてきてくれた編集、印刷、発送作業にかかわってくださっているスタッフの皆さんによって動いています。ご愛読いただいている多くの皆様、寛大に協力してくださっているスタッフの皆さんに支えられて今後とも、大先輩である奥村一郎神父が時代の必要をくみ取ってはじめられた『霊性センターニュース』を大切にはぐくんでまいりたいと思います。今後ともよろしくお願いいたします。皆様の主との出会いを祈りつつ

Fr.中川博道 o.c.d.

男子跣足カルメル修道会のホームページ

http://www.carmel-monastery.jp

Google：「カルメル会」で検索できます

男子跣足カルメル修道会
Order of Discalced Carmelites

霊性センターニュース掲載の情報も載っています

製本／発送のご協力お願い

「霊性センターニュース」の製本/発送を、2017 年 7 月号より宇治修道院で行う事になりました。発送作業は梱包・宛名ラベル貼りと確認チェック等です。皆様のご協力をお待ちしております。初めての方、不定期参加も大歓迎です。

次回の製本/発送日　　６月２８日(金)　午前１０時頃から

宇治修道院信徒会館

※ご協力いただける方は、製本/発送日をご確認の上、お越しください。

霊性センター事務局　☏0774-32-7456